

## 平成29年度第2回博物館懇談会議事録

日 時：平成30年2月28日（水）17時30分～19時

場 所：野田市郷土博物館1階展示室、野田市市民会館 雪月桃の間

出席者：懇談会委員・飯野きみ子、沼野秀樹、松浦正典、横川しげ子、米川幸克。郷土博物館館長・関根一男、同学芸員・柏女弘道、大貫洋介、寺内健太郎、田口阿紀（書記）。

### 1. 企画展「野田に生きた人々 その生活と文化2018」について

大貫学芸員から博物館展示室にて展示解説を行った（議事録省略）。その後、市民会館雪月桃の間に会場を移し、補足説明と意見交換を行った。

#### ●補足説明および意見交換

大貫：2月26日（月）現在の開館日数は47日で入館者数は3,978人、1日平均84人程となっている。2月にはクラブフェスタなどの行事があり多かったが冬の時期は例年入館者数が一番少ない時期となっており、今年も1月は少ない印象がある。展示した資料点数は約120点で、新収蔵品の点数は昨年よりも少なく、去年の3分の2程度である。その代わりに、パネルの数が去年の1.5倍程度となっている。

関根：今回は収集資料についてパネルで示していたが、改めて説明をする。

大貫：現在収集している資料としては醤油醸造関係、高度成長期以前の家電、農具、手紙、絵図、地図など。ただし、古いものであれば何でもよい訳ではなく、生活道具に関しては野田の人が生活で使っていたもの、野田の歴史や文化に関するものを集めている。醤油醸造に関するものは当館のコレクションとして、野田に直接かかわらないものについても収集している。

関根：白黒テレビなどは当館でまだ所蔵していない資料である。

大貫：保存状態のことを考えると電化製品の収集が難しいというのが現状である。

柏女：前回の懇談会の最後にもこの話題が出たため、展示を作る際に具体例を示すと良いということでもパネルを作成した。

関根：体験コーナーなどが博物館内にあるとよいのか。

大貫：火のしや電話機は小学生向けの体験でよく使うが、博物館内で行うのは難しい。火のしは火を使うし、電話機は音の心配がある。音を鳴らすためにモジュラー付きの電話を使ったりしているが、使用を続けていくとケーブルなどが消耗してしまうため、予備があればよいと考えているところである。

関根：現在実施しているものとしては勾玉作り体験がある。それ以外にも案などがあればよいと思う。せんべい作りなどは簡単にできるものなのか。

委員：せんべい作りは段階がある。下ごしらえと素焼きまではこちらで行い、子どもたちに焼き色をつけてもらうことはできる。以前こちらで開催した煎餅展の関連事業として行った。

大貫：今回の展示は主に子どもをターゲットとして作ったということもあり、アンケートの中から10代～20代のアンケート10枚を集計した。内容としては、大変良かった5枚、まずまず良かった3枚、あまり良くなかった1枚、悪かった1枚。肯定的な意見として、昔のことがよかった、ドグウのミミーが面白かった、という意見があった。否定的な意見としては、あまり企画がよくない、面白くない、という意見があった。子どものなかでも内容が難しい子はいるともいえない。また、クイズ等があればよかった、というものもあった。土偶や埴輪が人気であるようだ。最近の小学校の流れからか、タブレットを見ながら勉強をしたいという意見もあった。

柏女：子どもたちの学校見学がこの時期に多いということで、今年度から生活文化展をこの時期にずらしたが、1月末から2月初頭にかけて学校見学が多かった。今日から有職雛の展示に変わったが、2月末までは山中直治の資料を展示していた。山中は中央小学校の教諭だった作曲家である。2月24日には、これに合わせて山中直治コンサートも行った。

大貫：3月には子どもを対象とした事業として拓本採りのイベントも企画している。ミミーも最近、子どもたちの間で認知度が上がっているようである。

委員：体験のなかで、小学校のなかでお手玉など昔の道具で遊ぶということがあるが、今回はそれとは違うのか。

大貫：以前、昭和の暮らしの展示の時にメンコなど昔の道具で遊ぶということはやった。学校見

学の際にネックになるのが時間である。大体が1時間から1時間半くらいのところが多い。体験を行うと、仮に1人1分でも30分かかってしまう。体験してもらう道具は火のしや電話機以外にも計算機や農具などがあるが、時間の関係で全員が体験するのは難しい。クラスの代表に体験してもらう、というやり方もあるが、できれば全員に同じ体験をしてもらえたらと思う。

委員：私たちの小さい頃はおはじきで遊んだりした。おはじきなどは、みんなで一斉に体験してもらえるのかと思う。

委員：関宿の方では正月になると、いろいろな団体が集まって小学校を訪れ、昔の道具で2時間くらい一緒に遊ぶイベントがある。子どもたちは夢中になって遊んでいる。

大貫：遊びについて付け加えると、火のしの体験で火鉢と一緒に紹介する際に、昔は家のなかにも寒く、寒さを凌ぐために外へ出て、かけっこやおしくらまんじゅうをして体を動かしたなど、当時の生活の様子を含めて紹介している。

委員：展示パネルは太字でしっかりポイントを押さえており、文字数も少なくとても分かりやすくよかった。例えば、ワークシートなどを解いてもらい、ちょっとした景品などがあれば子どもたちは真剣に取り組む。タブレットに関しては授業というよりは家で使っていたり、いろいろな場所で音声の説明が流れるようなものがあったり、そういうものが当たり前になってきているからだろう。

委員：学校側の事情としては、中央小学校は歩いて来られるが、他の学校はバスの関係で来ることができないという実情がある。これが解消されるのであれば来たい学校はたくさんあると思う。

関根：大型バスを停めるスペースが無く、困っているところだ。

大貫：市内の学校からの見学は例年通りだが、最近は野田市以外、例えば柏市からの見学も増えてきている。

委員：それだけ価値のあるものを紹介してくれているということだと思う。

委員：展示というかチラシについてだが、ミミーを推していくことは良いと思う。山中直治コンサートもとても良かった。ミュージアム・コンサートチラシなどのデザインもよいと思う。

大貫：今回は子どもを意識して、キャラクターを大きくして、土器の写真を脇に配置してみた。

関根：ミュージアム・コンサートは、最近、好評を得ている。

大貫：最近ミュージアム・コンサートのために座席を並べると満席に近い状態になる。また、コンサート自体の認知度が上がってきたという印象がある。生活文化展については今後も少しずつ改良していけたらよい。

関根：チラシについては他に何か意見はありませんか。

委員：チラシは盛りだくさんの割にはインパクトがあり情報がわかりやすく載せてあってよかった。パネルにも必ずミミーが登場しており明るくて良かった。山中直治の展示は以前に拝見し、コンサートも行きたかったが行けなくて残念だった。皆さんが歌われたのか。

大貫：山中直治を歌う会のメンバーが歌った。最近、メンバーの方の年齢が高くなってきているところもあり、ただ歌うだけではなく、歌い継ぐ意義も伝えようと思い、原点に立ち返るということで山中直治に関する資料を展示し、それとともにコンサートを行った。

委員：貝塚や古墳などの展示を見て、貝塚断面の模型などは特に良かった。知らない人、子どもにも分かりやすい。また、遺跡へのアクセスなどもしっかり書かれていて、実際に見てみたい大人の方にとってよかった。

大貫：展示を見て、すべてを知ってもらうというのは正直難しいと思う。展示をきっかけに自分で改めて見てみようと思ったときの一助となればと考えている。

委員：下津谷先生など、大変懐かしい先生方のお写真や名前が登場していたが、一般の中学生や高校生たちが野田の遺跡に深く関わっている、ということを知った。「博物館って何をしているところなのか」という紹介パネルが最後に出てきたが、もっと大きく大々的に紹介しても良かったのでは。

大貫：展示構成の関係であの場所になってしまった。本当はその部分をしっかり伝えていく必要がある。

委員：展示で紹介したところ以外にも、市内にはまだ古墳などがあるのか。

大貫：ある。しかし、大体が発掘調査を終えた遺跡は建物を建てるために埋めてしまう。遺跡として形が残っているものはほとんど展示している。

委員：展示の苦勞などよく分かった。ありがとうございました。

## 2. 平成30年度事業計画について

柏女：4月以降の展示について説明する。まず4月は市民コレクション展として、本橋尚徳さんの水彩スケッチを展示する。夏は市民アート展を行う。ただ作品を展示するだけではなく作品に対する想いも一緒に展示する。現段階では紙細工によるアート作品を予定している。秋の特別展は祭りに関する展示を計画している。平成20年には野田の三か町の祭りと津久舞に関する展示をやった。今回は、大杉神社の祭りに焦点を絞って紹介したいと考えている。船神輿という神輿も状態の良い形で残っているので紹介できればと思う。冬は生活文化展となる。子ども向けという点はそのままに、今回とは異なるポイントや視点から紹介していく予定である。

委員：醤油の町として、醤油の入ったペットボトルやビンなど、容器の変遷などの展示はどうか。

柏女：平成19年の特別展で野田の樽職人という展示をした。2名の樽職人に焦点を当てて紹介した。現在は2階の常設展のなかで樽を含めた容器について一部紹介している。

柏女：学校見学の際は、子どもたちに馴染みのあるペットボトルから話を進めていくと子どもたちも理解しやすい。

大貫：ミミーのクリアファイルにも、駅に樽の絵を入れている。樽で出荷された醤油をイメージしたもの。

委員：ミミーのクリアファイルの汽車の背景の灰色の建物は何か。

大貫：今はなくなってしまった給水塔である。汽車のシルエットも当時野田を走っていた汽車を参考にした。クリアファイルは実用性があってよいと考えている。

関根：それでは、本日はどうもありがとうございました。